

8月4日・東北地方の豪雨で被災した 磐越西線の現地調査を行いました



令和4年8月3日から的大雨によって、東北地方の鉄道に被害が発生しています。8月19日、JTSUは福島県喜多方市に入り、磐越西線の不通区間を調査しました。

濁川橋梁(上写真)は橋脚一台が傾き上部の橋げたが落下していました。『SL ばんえつ物語号』の撮影ポイントとして有名な一ノ戸川橋梁(左写真)は流木が橋脚に絡まっていた。

濁川橋梁の崩落のため、磐越西線は喜多方～野沢駅間が不通となり、現在はバスによる代行輸送が行われています。

山都駅に到着した代行バス(下写真)では、運転手が駅舎に入り発車を呼び掛ける様子も見受けられました。

磐越西線は通勤・通学輸送を担うとともに、東日本大震災では緊急燃料輸送列車が運行され、南東北の被災地を支えました。また、観光路線としても「SL ばんえつ物語号」が運行(現在は運休)され、福島県や新潟県の“観光資源”としても有名です。

沿線自治体からは磐越西線の早期復旧が要望されています。“地域の足”として、“観光資源”として、“災害時の輸送網”として、地球環境に優しい交通手段として、鉄道の役割が期待されています。

JTSUは被災した鉄道の早期復旧とともに、地域とのコミュニケーションを重視した交通政策の実現に向けて取り組みます。

